

9/30 朝刊

# 細田議長 接点認める

## 旧統一教会側の会合出席

細田博之衆院議長が29日、「世界平和統一家庭連合(旧統一教会)」との接点を認めるコメントを発表した。2018年、19年の教団関連団体の会合に計4回出席するなどした。細田氏が認めるのは初めてで、「招待があったので、出席



細田衆院議長

して挨拶した」などと記した。書面での一方的な説明で、野党側が「不十分だ」

と批判。10月3日石巻の臨時会合は、冒頭から混乱が避けられない見通しだ。  
▼3面＝説明紙1枚だけ、25面＝自民党機内機次々  
「三権の長」である細田氏が教団側との複数の接点を認めたことで、内閣支持率が低迷する岸田政権には

さらなる打撃になる。野党側は議長としての資質を追究する方針で、政府・与党は臨時国会で大きな火種を抱えることになる。  
細田氏は昨秋の衆院選を自民党公認で戦い、当選11回。自民最大派閥の安倍派で2014〜21年に会長を務めた。教団創始者の妻で現在の教団トップ・韓鶴子氏が出席した会合で、「三権の長」に就任したと語り、「三権の長」とあいきまうする動向が、7月の安倍晋三元首相の銃撃事件後明らかにするなど接点が指摘されてきた。事件から2カ月を経

て、ようやく説明した。細田氏が公表したコメントはA4判1枚で、記者会見はしなかった。書面で二つの会合のほか、19年3月、18年9月の会合についても「出席した記録があった」とした。19年8月には関係団体のインタビューを受け、選挙では「地元の関係団体が私を支持するなどの意向があったことは事実である」と認めた。一方で「関係者は、私が知る限りでは普通の市民」とも記した。書面だけの対応に、この日の衆院議院運営委員会理事会で、野党筆頭理事で立

憲民主党の笠浩史氏が「マスコミで指摘されたことを認めただけ。選挙支援や組織的応援を受けたのか、一切触れられていない」と反発し、さらなる説明を求めた。共産党の志位和夫委員長は、記者会見で「統一教会の最大の広世塔の一人だったことがはつきりした。即刻議長を辞任してほしい」と迫った。  
岸田文雄首相は、細田氏が接点を認めたことについて首相官邸で記者団に「三権の長たる(自身の判断として適切に判断するものでコメントは控える」とした。

自民党総裁としての対応を問われても「三権の長に総裁が何か指示や働きかけをするのは、三権分立の考え方からしても問題を含む」と言及しなかった。

# 細田氏説明紙1枚だけ

## 選挙で関係団体と接点

### 教団トップの前にあいさつ 本社取材

「世界平和統一家庭連合(旧統一教会)」との接点を取りきたされながら沈黙を続けてきた細田博之衆議院議員が20日、初めて教団側とのつながりを認めた。与野党の双方から説明を求められ、書面1枚に過去に出席した会合などを記した。ただ、内容は真実性を欠き、野党はさらなる説明を要求。臨時国会の開会4日前に議長が新たな火種を抱える異例の事態だ。

▼1面参照

20日午前11時半、匿名も表紙もないA4判の紙1枚が国会内にある記者クラブで報道陣に配られた。文末には「衆議院議員 細田博之」に記されていた。議長の立場ではない議員として配布した文書であることがあつたことは事実だ。な

- 10月 「世界平和女性連合」の会合に出席
- 10月 「国際勝共連合」の大会に出席
- 10月 「世界平和女性連合」の会合に出席
- 10月 「世界日報社」のインタビューを受ける
- 10月 「天宙平和連合」の会合に出席



- 10月 「日本・世界平和議員連合懇談会」(解散)の名誉会長に就任
  - 10月 「日韓海底トンネル推進議員連盟」の顧問を務めた(現在は辞任)
- 選挙時に地元の関係団体から支持するとの意向を受けた

細田博之氏と教団、友好団体との関係 公職文書で細田氏事務所の説明から

と記されていた。行教は20日、一つひとつの会合などについて細かな説明はなかった。細田氏本人が直接取材にも応じなかった。文書にある会合は、どういったものなのか。

これまでの朝日新聞の取材では、19年10月の会合は「国際指導者会議」として名古屋市のホテルで開催された大規模なイベントだった。主催した教団友好団体のホームページによると、国内外から750人が集まり、教団創始者の葬儀で現在の教団トップの藤野氏が基調講演を行った。

朝日新聞が撮影した会合の動画では、韓氏の講演前に登壇した細田氏は「感謝、誠におめでとうございませう」とあいさつ。「今日の盛會を、そして会の内容を安倍総理にささげ、報告したい」と述べた。

この会合への出席について、細田氏の事務所は「これまでの取材に『回答は差し

控える』としていたが、20日に公表した文書では「招待があつたので出席してあいさつした」と記した。また、文書で「選挙において支持する意向があつた」とことについて、事務所は「自主的に選挙運動をもちたい」と説明した。

細田氏の対応に、野党は強く反発した。20日の衆院議員選挙委員会では、野党筆頭理事の笠浩史氏(立憲民主党)が、文書に記された内容について「確認する場を作っていたら良かった」と要求。立憲の安住淳・国会対策委員長は記者団に「本会議で議長を問いただすような場面も作らざるを得ないのでは」と語った。

国会日程の調整にも影響が出た。与野党は10月3日の開会日に岸田文雄首相が所信表明演説する(2)では折り合ったが、5、6両日の代表質問の決定は見送られた。

文書を公表した背景には、野党のみならず、与野党からの非公式な説明要求もあつた。政権幹部は、国会前に細田氏が事実関係を明らかに

かとするまで批判が沈黙化するのを期待した。だが「火に油」立憲国対幹部と逆に批判材料を与えらるような事態に、自民内からも「記者会見をした方がいい」(安倍派幹部)と、

対峙を求める声が上がらる。細田氏はこれまで「選挙の格差」是正策として衆院小選挙区を10増10減する案に否定的な発言を繰り返したり、女性記者に対するセクハラ疑惑が報じられた

りして、通常国会で異例の不信任決議案を出された経緯もある。閣僚経験者は教団との関係でも新しい何かが出てくるかもしれないと、先行きに不安をのぞかせる。(一塩一庵小寺隆一郎)

### 「日韓トンネル研究会」では顧問

世界平和統一家庭連合(旧統一教会)の友好団体が組織する「日韓トンネル」構想に絡み、講演会などを開いているNPO法人「日韓トンネル研究会」の顧問を細田博之衆議院議員が務めていたことが分かった。研究会のホームページに顧問として名前があつたほか、会長の野次太三(元自民党参院議員)が取材に認めた。

研究会のホームページに掲載されていた顧問名簿に

教団の創始者・文鮮明氏が提唱。友好団体の「国際ハイウェイ財団」が事業を担う。教団関係者によると、研究会は財団の友好団体という。会長の野次氏は、朝日新聞の取材に「主なメンバーが旧統一教会の会員であることは承知しているが、旧統一教会の組織ではない」と説明している。

研究会のホームページに掲載されていた顧問名簿に

は、今年8月半ば時点で細田氏の名前があつた。しかし9月2日現在の名簿には記載されていない。野次氏によると名簿から削除するよう細田氏側の要請があつたと事務局から報告を受けたという。細田氏が20日に発表した文書には記載がなかった。細田氏の事務所は「案内状も記録もな、確認できないため公表しなかった」と説明している。

研究会のホームページに掲載されていた顧問名簿に